

# 看護・介護の現場から

松本市四賀在住 NPO法人峠茶屋  
看護師 江森けさ子

今回から3回にわたり、江森けさ子さんに「看護・介護の現場から見えてきたもの」、「仕事の中で感じていること」などを書いていただきます。

お読みいただき、ご質問や感想をお寄せください。

## 第1回 池田町には優しさがある

2019年の暮れも押し迫った日、運転中に携帯が鳴った。「お年取りに家に帰りたい」という方の入院先から訪問看護の依頼だった。

がんの末期、治療の効果も期待できず、ご本人も家族もすべて承知で急遽の退院なのだ。

白馬連峰が一望できる入院先の病院では、医療対応に困



難な地域への退院にむけて、ご本人の願いを叶えるために、必要物品はすべて準備してくれた。

看護のポイントも申し継がれた。ありがたかった。私には明日がある。彼女には「いま」しかない。断る理由は何もない。私の訪問可能な時間帯に設定し、片道30kの夜道を走った。

住み慣れた部屋には酸素ボンベが用意され、目を閉じ全身むくんだ身体でベッドに臥していた。穏やかな表情だった。お名前を呼ぶと布団から熱っぽい

手を出し、笑顔で「ありがとう、ありがとう」と何回も応えてくれる。苦しいとも辛いとも言わなかった。私は「お帰りなさい」の言葉がやっとだった。

大晦日の宴の時間に雪の舞う山道を、彼女とご家族の安寧を願って車を走らせた。

コロナ禍は世界中を嵐のように吹きまくっている。わが国も第2波とも思える感染拡大が押し寄せている。

高齢者の命と暮らしを守る介護施設では、極度の緊張の中にいる。そして施設で使う食材にも事欠いた。

身近な市にも患者が出たという。第1波の時は、経済活動も教育も何もかもがストップして途方にくれているとき、いち早く池田町に温かい動きがあった。

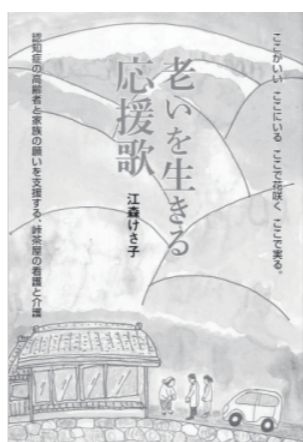
「住民にお弁当を届ける」というニュース、町と観光協会、商工会が連携し、全戸にメニューの入ったチラシを配り注文を取る。それを該当す

る飲食店に届け、出来たお弁当は係りが無償で配達する。困った時の知恵、人間にはこんな力がある。

今ではテイクアウトという生活様式が各地で広まっています。市町村合併の波に乗らず、努力している小さな町の発想と底力が、世の中を変えたの

### 江森けさ子さんの経歴

- 1941年 四賀村に生まれる
- 2001年 旧四賀村（現松本市）に40年目のUターン
- 2003年 NPO法人峠茶屋設立と同時に通所介護を開所
- 2004年 居宅介護支援事業所開所
- 2007年 地域密着型認知症対応共同生活介護グループホームすみか、（定員9名）開所
- 2009年 通所介護施設新築移転に伴い住宅型有料老人ホームにしきの丘・訪問介護ステーション、訪問介護を開所
- 2018年 本を出版 「老いを生きる応援歌」 かもがわ出版



2014年から月2回市民タイムスにコラム「老いを生きる応援歌」を掲載。2018年7月に発行されました。お読みになりたい方は山本までご連絡ください。（61-1066）お貸します。

### 部内資料

発行責任者	太田 勅 (62-5727)
議員連絡先	薄井 孝彦 (62-5093)
	服部 久子 (62-4357)
編集責任者	山本 久子 (61-1066)

225号  
2020年7月

日本共産党  
池田ファンクラブ・ニュース  
あした天気にな〜れ

## 「全世代型社会保障改革」の狙い 「生涯現役労働強制社会」になりにかぬない

昨年9月20日、安倍首相が「本年度最大の挑戦だ」と位置づけた「全世代型社会保障検討会議」の第1回会合が開かれ、12月には中間報告が出されました。政府が「全世代型」と銘打った1つの狙いは、社会保障支出の「バランス」を変えていく姿勢を見せることです。

子育てや教育、住宅施策に充てるという口実のもと、高齢者にかかる年金や医療・介護の給付を減らしていく、方針です。「全世代型」のもう1つの狙いは、負担についても年齢に関係なく、「広く薄く」を浸透させることです。10月1日の消費税10%への増税に合わせて、第1回会合を開いたのは象徴的です。

選ばれたメンバーを見れば、政府が狙う社会保障「改革」の方向性は明らかです。議長を務める安倍首相のほか、政府の



選ばれたメンバーを見れば、政府が狙う社会保障「改革」の方向性は明らかです。議長を務める安倍首相のほか、政府の

会議で社会保障改悪を推進してきた閣僚や「有識者」が並びました。日本経団連と経済同友会から財界の2トップが選ばれたのに、労働界や医療・介護関係者の代表はまったく入っていません。最大の特徴は従来の「社会保障改革」に「雇用改革」を組み入れていく点です。具体的には「生涯現役社会」と称して、労働者・国民に、高齢になっても可能な限り働き続けることを求め、年金制度などをそれに合わせて変えていくとしています。70歳までの就業機会の確保を企業の努力義務とし、いずれは

義務にするとしています。国は「長く働かせるためには健康が前提だ」と病気の予防と健康づくりに取り組ませ、社会保障をできるだけ使わせないようにしています。多くの高齢者は「年金だけでは暮らせないから働かざるをえない」というのが実態です。政府が発信している「社会保障の受け手ではなく支え手になってほしい」といったメッセージは、働けない人が排除されたり、差別されていくことにつながりかねません。老後は改めて自分のやりたいことをやったり、生きがいを感じられる活動をしたり、社会に対する貢献をする、そういうことができているのが豊かな社会ではないでしょうか。

### 文芸欄

皆様からの投稿を掲載しています。

- 俳句 ○ぬか床の 出番となりぬ 茄子胡瓜 美ちこ
- 手作りの 買い物袋 紅トマト 由美
- 梅雨深し 貼り絵の和紙をちぎりおり みき子



### コラム有明

17色のカラフルな丸い円のマーク、SDGS（エスディージーズ）という言葉がさまざまな場所で目につくようになった。17の目標を10年後までに達成させる。と国連で採択されたものだ。▼貧困をなくし、すべての人が平等で安全な生活を営むことができる世界にしようとのことだがその中に「ジェンダー平等実現」がある。少し触れてみたい。▼ジェンダーとは男女の社会的文化的な性差のこと。なぜ男が先なのか。女男と言ってもいいのと思うが。戦時中の日本軍「慰安婦」問題は今だに尾をひいている。天皇のために命を捨てることを強要された兵士を「慰安」する物として戦地に送られた女性たち。戦時中の現実である。▼戦後75年経ち今こそ個人の尊厳を守り社会的に男女が平等になることを世界193か国で実現させることをめざしている。自分の周りで女だからと差別を受けている人がいたら黙っていないで発信しよう。